

n によらず答は全員同じで,

$$H_i(K_n) \cong \begin{cases} \mathbb{Z} & i = 0, \\ \mathbb{Z} \oplus \mathbb{Z} & i = 1, \\ 0 & i \geq 2 \end{cases}$$

です. $H_0(K_n) \cong \mathbb{Z}$ であることは, 11/9 の講義でやったように, $|K_n|$ が弧状連結であることからわかります. $\text{Im } \partial_2 = 0$ だから $H_1(K_n) \cong \text{Ker } \partial_1$ で, $H_1(K_n) \cong \mathbb{Z} \oplus \mathbb{Z}$ の生成元は, 例えば

- $n = 0$: $\langle v_1v_2 \rangle + \langle v_1v_2 \rangle + \langle v_2v_6 \rangle, \langle v_1v_2 \rangle + \langle v_2v_3 \rangle + \langle v_3v_4 \rangle + \langle v_4v_5 \rangle + \langle v_5v_1 \rangle$
- $n = 1$: $\langle v_1v_2 \rangle + \langle v_2v_3 \rangle + \langle v_3v_6 \rangle + \langle v_6v_1 \rangle, \langle v_3v_4 \rangle + \langle v_4v_5 \rangle + \langle v_5v_6 \rangle + \langle v_6v_3 \rangle$
- $n = 2$: $\langle v_1v_2 \rangle + \langle v_2v_3 \rangle + \langle v_3v_1 \rangle, \langle v_1v_4 \rangle + \langle v_4v_5 \rangle + \langle v_5v_6 \rangle + \langle v_6v_1 \rangle$

を取れます. これらは一例で, 他の取り方もあります. $\langle v_i v_j \rangle$ を $\vec{v_i v_j}$ という矢印に対応させると, 上記の生成元が向きの付いたループに対応することに注意してください. これも 11/9 の講義でやったことに対応しています.

答が全員同じであるのは, $|K_n| \simeq S^1 \vee S^1$ (ホモトピー同値) であることが背景にあります. ただし $S^1 \vee S^1$ は 11/16 の講義でやった 1 点和 (bouquet) です. そのあたりは今後の講義で明らかになる予定です.

例えば K_1 について,

$$“K_1 = K(|v_1v_2v_3v_6|) \cup K(|v_3v_4v_5v_6|) \setminus \{|v_1v_2v_3v_6|, |v_3v_4v_5v_6|\}”$$

のように書いている人がいましたが, これは誤りです. “ $|v_1v_2v_3v_6|$ ” という 3 単体があるわけではありません. また v_1, v_2, v_3, v_6 を頂点とする 4 角形が「2 単体」になるわけでもありません. 単体の定義を復習してください.

また

$$“\partial_1(C_1(K_2)) = a_1(\langle v_2 \rangle - \langle v_1 \rangle) + a_2(\langle v_3 \rangle - \langle v_2 \rangle) + \dots”$$

のような書き方も誤りです. 左辺は集合, 右辺はその集合に属するべき元で, それらが等号で結ばれるのは変です. 例えば

$$“x = a_1\langle v_1v_2 \rangle + a_2\langle v_2v_3 \rangle + \dots \in C_1(K_2) \quad (a_1, a_2, \dots \in \mathbb{Z}) \text{ に対し } \partial_1(x) = a_1(\langle v_2 \rangle - \langle v_1 \rangle) + a_2(\langle v_3 \rangle - \langle v_2 \rangle) + \dots \text{ である}”$$

のような書き方であれば意味が通ります.